

主要コンテナ航路の荷動き動向（速報値※）

（公財）日本海事センター・企画研究部

（公財）日本海事センター・企画研究部は、PIERS（Port of Import/Export Reporting Service）の統計データを基に、『日本・アジア / 米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しております。それに加えて、欧州航路、日中航路、アジア域内航路の荷動き動向も発表しております。

主要航路の荷動きのポイント

北米航路 往航（2019年12月）1,380,189 TEU（16.6%減）（2018年12月：1,654,115 TEU）
 ・《中国積み前年比28.9%減。18カ国・年計は2009年以来の減少で前年比1.3%減》
 復航（2019年10月）575,178 TEU（3.8%減）（2018年10月：597,854 TEU）

- 北米往航（アジアから米国）は、前年比16.6%減で3か月連続のマイナス。2019年12月の中国（塩田）-ニューヨーク間の運賃は前年比16.7%減の2,140ドル/TEUで5か月連続のマイナス。
- 北米復航（米国からアジア）は、前年比3.8%減で、3か月振りのマイナス。2019年12月のニューヨーク-中国（塩田）間の運賃は前年比2.5%増の810ドル/TEUで2か月振りのプラス。

欧州航路 往航（2019年11月）1,205,139 TEU（2.0%減）（2018年11月：1,229,355 TEU）
 ・《北東アジア積みを中心に2か月ぶり減少、累計ベースでは3.0%増》
 復航（2019年11月）681,818 TEU（3.7%増）（2018年11月：657,174 TEU）

- 欧州往航（アジアから欧州）は前年比2.0%減で2か月振りのマイナス。2019年12月の中国（塩田）-英国（フェリックストウ）間の運賃は、前年比9.5%増の1,270ドル/TEUで2か月連続のプラス。
- 欧州復航（欧州からアジア）は前年比3.7%増で11か月連続のプラス。2019年12月の英国（フェリックストウ）-中国（塩田）間の運賃は、前年比7.7%増の980ドル/TEUで3か月振りのプラス。

日中航路 往航（2019年11月）850,474 トン（13.0%減）（2018年11月：977,265 トン）
 ・《機械類を中心に減少、前年比減が続き累計ベースでも14.3%減》
 復航（2019年11月）1,808,972 トン（9.3%減）（2018年11月：1,993,986 トン）

- 日中往航（日本から中国）は、前年比13.0%減で9か月連続のマイナス。金額ベースでは前年比4.8%減の7,203億円で9か月連続のマイナス。2019年12月の横浜-上海間の運賃は前年比25.6%増の490ドル/TEUで16か月連続のプラス。
- 日中復航（中国から日本）は、前年比9.3%減で2か月連続のマイナス。金額ベースでは前年比13.1%減の1兆985億円で4か月連続のマイナス。2019年12月の上海発-横浜向の運賃は前年比1.6%増の650ドル/TEUで2か月振りのプラス。

アジア域内航路 （2019年11月）3,839,700 TEU（1.2%増）（2018年11月：3,794,100 TEU）

- CTS社による集計では、前年比1.2%増となる384万TEUで2か月連続のプラス。2019年12月のアジア域内コンテナ運賃指数（US\$/FEU）は前年比16.5%増の882ドル/FEUで12か月連続のプラス。

注1：速報値ベースでの発表のため、後に修正が加わる場合がある。

注2：日中航路荷動き量は財務省「貿易統計」をもとにした（公財）日本海事センターによるトンベースでの推計。

注3：運賃指数はDrewry, *Container Freight Rate Insight*,に基づく

図 - 1 北米航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

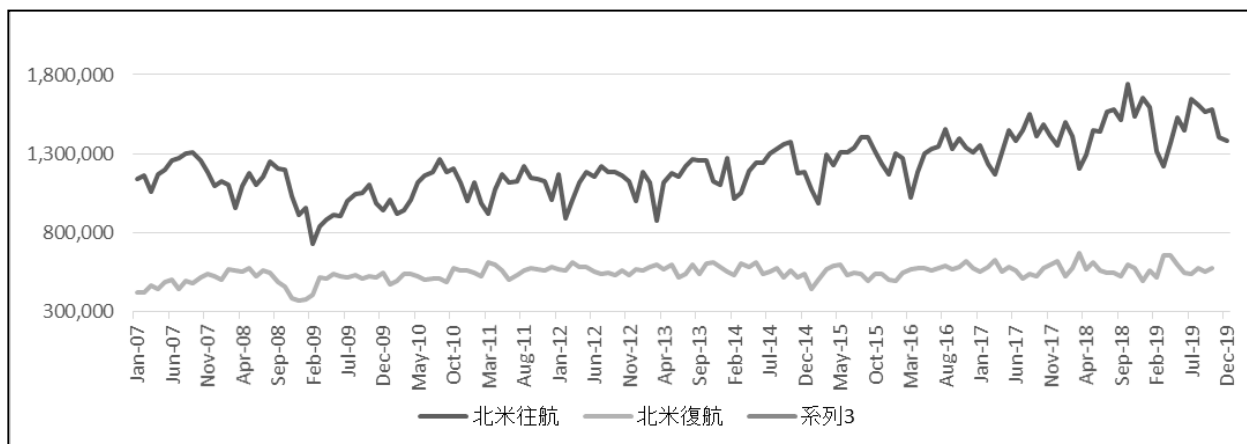


図 - 2 欧州航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: TEU)

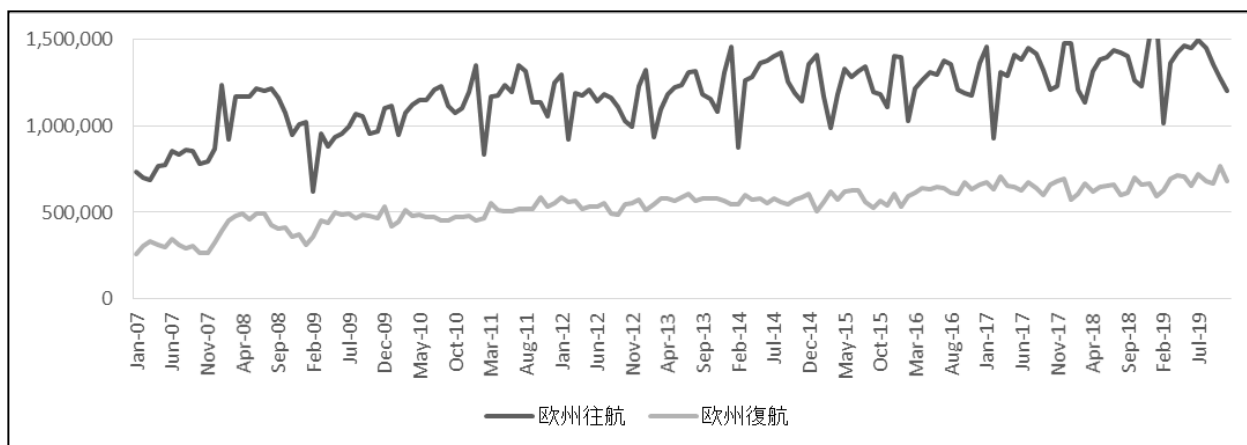


図 - 3 日中航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位: トン)

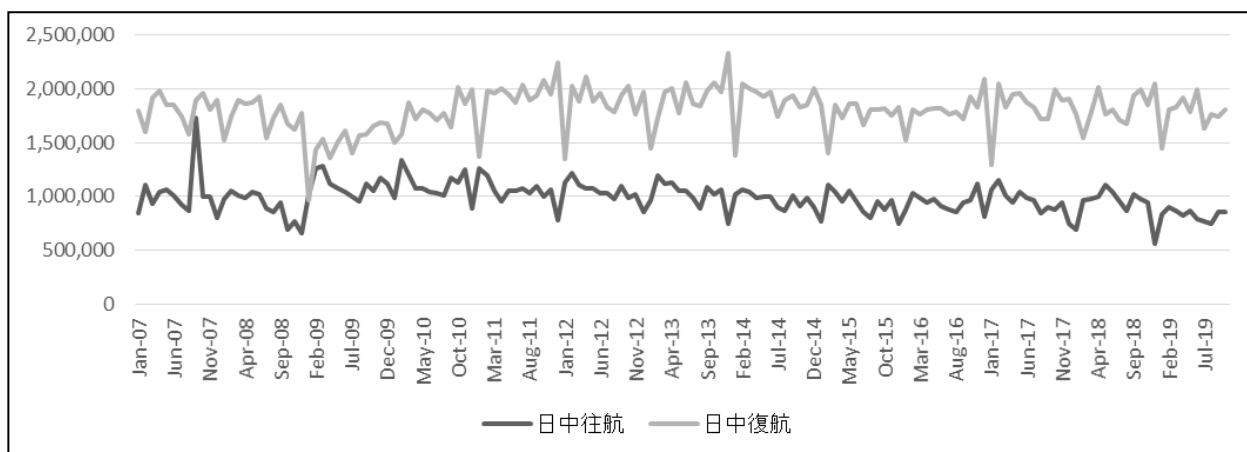


図 - 4 アジア域内航路におけるコンテナ輸送量の推移 (単位 : TEU)

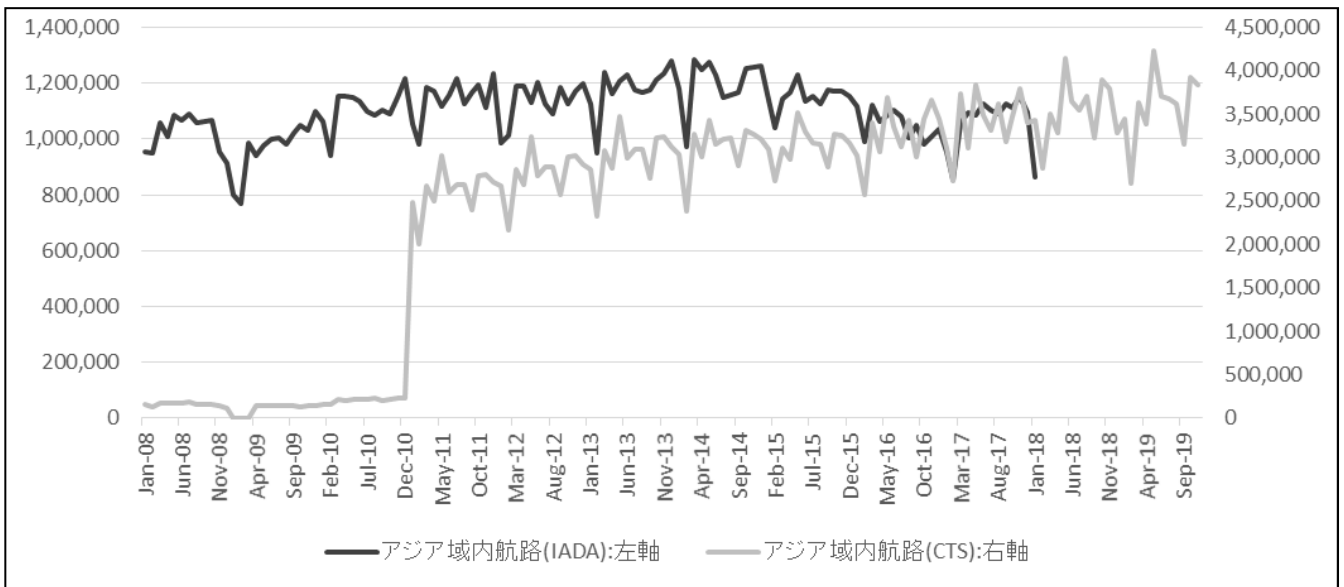


図 - 5 北米航路における運賃指数の推移 (単位 : ドル/TEU)

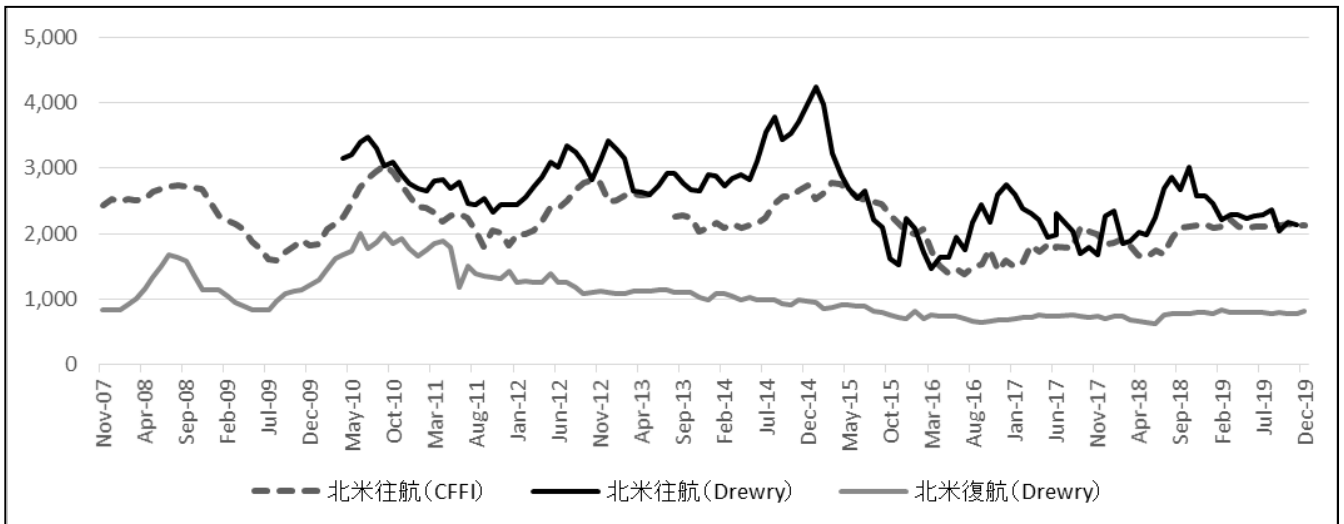


図 - 6 欧州航路における運賃指数の推移 (単位 : ドル/TEU)

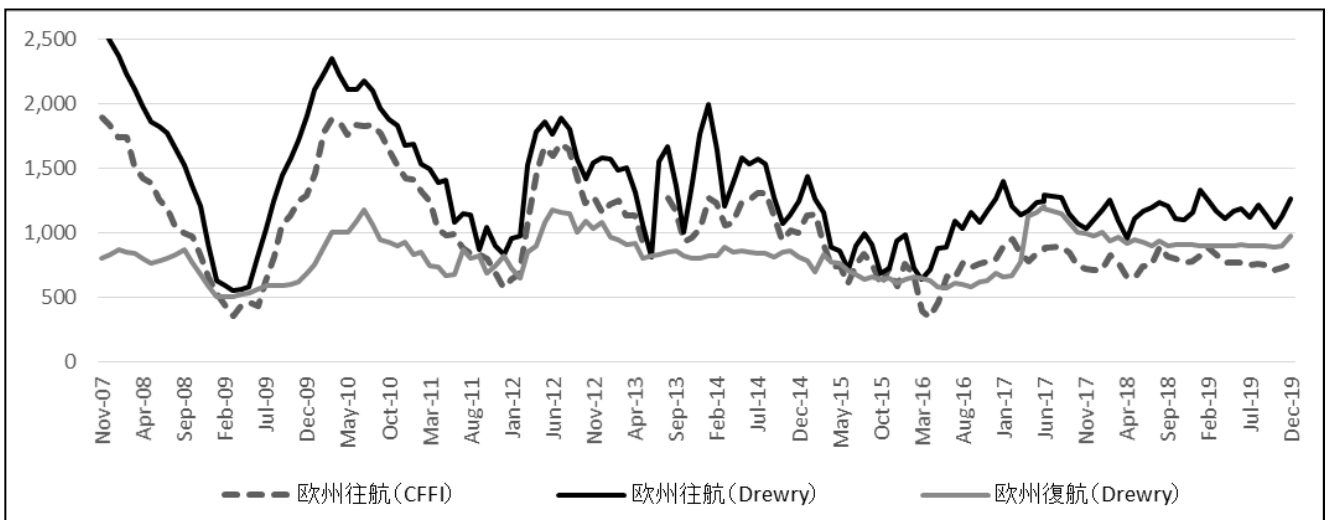
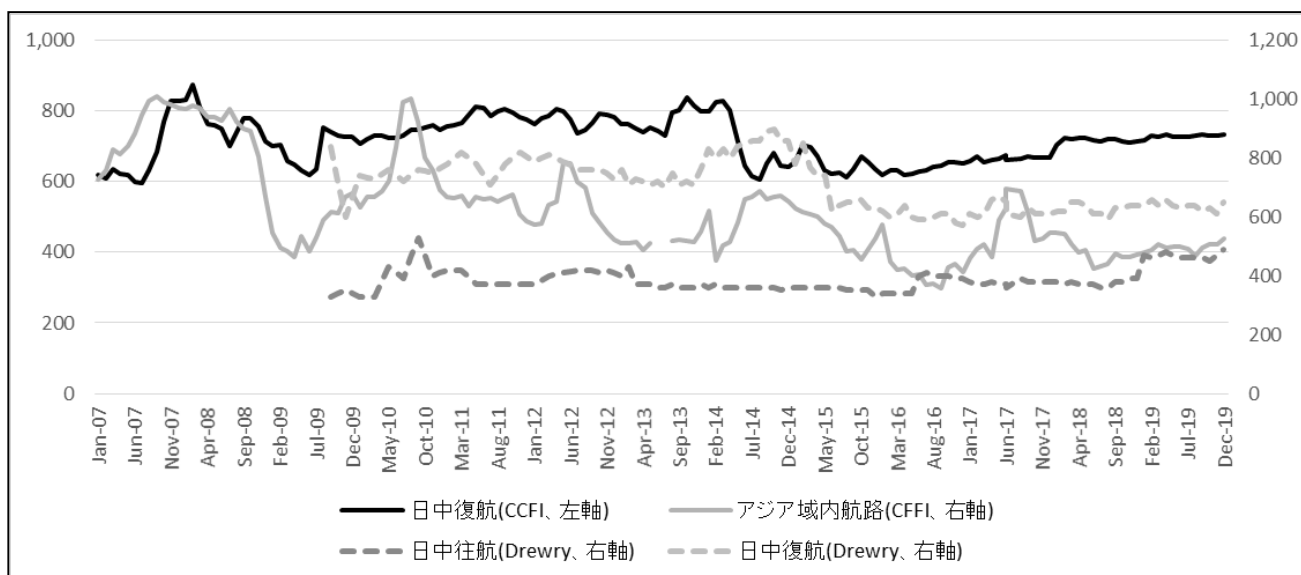


図 - 7 日中航路・アジア域内航路における運賃指数の推移 (単位 : 指数 (左軸)、ドル/TEU (右軸))



(参考) 輸送量・運賃データの出所

- 1.北米航路輸送量 : PIERS (Port Import/Export Reporting Service) データ
- 2.欧州航路輸送量 : Container Trade Statistics Ltd.
- 3.アジア域内航路輸送量 : IADA アジア域内配船主要船社取りまとめデータ、Container Trade Statistics Ltd. (CTS 社)
- 4.日中航路輸送量 (トンベース) : (公財) 日本海事センター企画研究部 (注意 : 財務省貿易統計に基づきトンベースで推計)
- 5.北米航路、欧州航路運賃指数 (往航では (CI,Drewry) と示した列、復航) : Drewry “Container Freight Rate Insight”:南中国 (塩田) と米国東岸 (ニューヨーク)、英国 (フェリックストウ) 間の運賃
- 6.北米航路、欧州航路運賃指数(CCFI)と示した列 : 中国国際海運網ウェブサイト <http://en.shippingchina.com/scfi/index/index.html>
- 7.アジア域内航路運賃指数 (毎月) : 中国国際海運網ウェブサイト (中国・東南アジア間航路の運賃指数) Drewry “Container Freight Rate Insight”:Intra-Asia Freight Rate Index(US\$/FEU)
- 8.日中航路運賃指数 :
 - ・ Clarkson Research “China Intelligence Monthly“ (上海航運交易所発表の中国輸出コンテナ運賃指数 ((CCFI) と示した列) :
 - ・ **Drewry “Container Freight Rate Insight” (中国 (上海) と東京/横浜間の運賃) : 2014 年 4 月発表の資料より変更**
- 9.BDI (バルチック海運指数) :
 - ・ トランプデータサービス “World Maritime Analysis”
- 10.円ドルレート :
 - ・ FRB ウェブサイト <http://www.federalreserve.gov/econresdata/releases/statisticsdata.htm>